

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>(1)北越鉄道および信越線の歴史</p> <p>(2)頸城野と頸城鉄道</p> <p>(3)鐵道敷設法と北越南線・北線</p>	<p>国立公文書館および新潟県立文書館の所蔵資料を調査し、文献の発掘に努めた。こうして集めた文献を新潟県史、県内市町村史の記述と突き合わせることで、これらの二次資料がどの程度まで文献を反映し、あるいは故意に隠蔽しているかを調査した。</p>	<p>(1) くびき野カレッジ第 13 期（「北越北線と北越南線」2017 年 1 月 14 日）、第 14 期（「鐵道敷設法と幻の鐵道」2017 年 8 月 12 日）、第 15 期（「くびき野と頸城鐵道」2017 年 11 月 25 日）で口頭発表を行った。</p> <p>(2) この成果をもとに、鐵道友の会新潟支部の求めに応じて、2017 年 9 月 30 日に直江津図書館（上越市）で「黎明期の北越鐵道（上越篇：関根干城による北越鐵道線路破壊事件をめぐって）」、2017 年 11 月 11 日には万代市民会館（新潟市）で「黎明期の北越鐵道（新潟篇：桜井市作による沼垂駅・栗木川橋梁爆破事件をめぐって）」と題する二度の講演を行い、フィールドワークに同行した。</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2014 年度科学研究費基盤研究 (B) 一般研究 「ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究」(2014 年 4 月～2018 年 3 月) 	<p>2017 年 1 月～3 月はこの研究の第 3 年度の最後の 1/4 にあたり、現地調査の二度目として、共同研究者と手分けして、カッセルおよびケルンの美術館の調査とウィーンのアートミュージアムの調査とドレスデンのアートミュージアムの調査を行った。このうち、石川が担当したのは、ウィーンのアートミュージアムの調査とドレスデンのアートミュージアムの調査。</p> <p>2017 年 4 月以降は最後の年度となり、報告書の執筆と取りまとめを行っている。</p>	<p>(1) 著書 (論文) : 壽福眞美監修『知の史的探究——社会思想史の世界——』(八千代出版 2017 年 3 月 24 日)「ヘーゲルの 1820/21 年『美学講義』の絵画論と歴史的展示」(p.149-p.177)</p> <p>(2) 翻訳 : G.W.F.ヘーゲル『美学講義』(法政大学出版局 叢書・ユニベルシタス 1057 2017 年 4 月 25 日 寄川条路監訳、石川伊織・小川真人・瀧本有香訳) : Georg Wilhelm Friedrich Hegel. <i>Vorlesung über Ästhetik, Berlin 1820/21. Ein Nachschrift</i>, hrsg. Von Helmut Schneider, Frankfurt/Lamg, (1995)の翻訳。石川の担当部分は第二部全体(p.165 – p.331)と訳注(p.333 – p.379)の大半および索引(p.(1) – p.(8))。</p> <p>(3) 論文 : 「ヘーゲルの絵画論 : ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験をめぐって」(日本ヘーゲル学会編『ヘーゲル哲学研究』第 23 号 (2017 年 12 月刊行予定))</p>
---	---	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化</p>	<p>★機雷爆発事件供養塔（上越市名立区名立小泊）に彫られた盃状穴調査、2017.11.26 ★日前神社（上越市名立区名立小泊、祭神：天鏡尊）見学・調査、2017.11.26</p>	<p>〔著作・論文〕 ★小川未明の愛郷心—壺碑文に注目して—, 頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum9、2017.03 ★地域文化的沃土—頸城野: 視自然为神明、为朋友的风土(地域文化の沃土—自然を神とみなし友とみなす風土)、JST (国立研究開発法人科学技術振興機構) の中国語サイト『客観日本』、2017.11.9 ★地域文化的沃土—頸城野:1996 年初夏越柳的祈雨仪式 (地域文化の沃土—1996 年初夏の越柳雨乞い儀礼)、JST (国立研究開発法人科学技術振興機構) の中国語サイト『客観日本』、2017.11.29 〔講演・報告〕 ★大工職人の雁木通り史、NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第 14 期第 6 講、2017.06.24</p>

		越後信濃上野の古代朝鮮文化、NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第15期第5講、2017.11.11
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>★地域史・地域文化</p>	<p>★古代日韓文化交流調査4（旧伽耶地域、光州、木浦）、2017.02.20-24</p> <p>★秩父札所 20～25 番およびその周辺見学・調査、2017.05.03-04</p> <p>★保渡田古墳群（高崎市）調査・見学、2017.05.20</p> <p>★八丁鎧塚古墳群（須坂市）・大室古墳群（長野市）調査・見学、2017.05.26</p> <p>★久伊豆神社（越谷市越谷）の足元縛られ狛犬、天嶽寺（同）の裏返し六字名号塔調査、2017.07.17</p>	<p>〔著作・論文〕</p> <p>★伽耶・光州・木浦文化調査紀行 2017.02.20～24、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Forum8、2017.03</p> <p>★八丁鎧塚・大室古墳群見学記（須坂市・長野市、2017.05.26）、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、forum13、2017.06</p> <p>〔講演・報告〕</p> <p>★J.G. フレイザー、金枝篇、第7巻、国書刊行会、神成利男訳の監修、2017.09</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびき文化を含む「裏日本」文化関連の研究</p>	<p>① 中国(南方海岸)における民間信仰である媽祖信仰の起源をさぐり、さらにそれが日本へどのように伝わってきたかを調べた。その結果、日本在来の船玉信仰や弟橘媛信仰との深い結びつきが見られた。また「裏日本」射水市の曳山祭などにもその名残が見られることがわかった。</p> <p>② 養蚕信仰と馬娘婚姻譚に関する研究を行った。渡来系氏族の秦氏の聖地ともされる京都の松尾大社などをフィールドワークした。養蚕信仰と瞽女のかかわりについても考察を行った。さらに馬娘婚姻譚に見られる蚕と桑の木そして馬の関係性を探った。</p>	<p>〔公開講座〕</p> <p>・くびき野カレッジ天地びと「裏日本」文化⑨—媽祖信仰と日本海—(8月12日)、「裏日本」文化⑩—養蚕信仰と馬娘婚姻譚—(12月9日)</p> <p>〔連載〕</p> <p>・web連載(月刊)：雑誌『ロゴスドン』「裏日本」文化、第13回(2017年4月)～第21回(2017年12月)。http://www.nusu.com/seimei.html</p> <p>第25回：ヤマタノオロチと越国、第26回：越国と龍、第27回：ヌナカワ姫伝説、第28回：ヌナカワヒメ伝説②、第29回：翡翠、第30回：秦氏とは、第31回：秦氏の分布とルート、第32回：秦氏と養蚕、第33回：青谷上寺地遺跡</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>仏教、文化人類学に関する研究(南方熊楠研究)</p>	<p>① 龍谷大学世界仏教文化研究センターにおいて、南方熊楠の思想について、仏教学及び文化人類学的な視点から研究を行った。8月には、那智勝浦及び南方熊楠顕彰館へのフィールドワークを行った。顕彰館では日記の現物から、現在の熊楠に関する刊行物には未掲載の重要な「挿絵」などを見出し、龍谷大学仏教文化研究所における研究会で発表を行った。2018年度内に、その結果を論文かワーキングペーパーとしてまとめたい。</p> <p>② 『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』に、熊楠による、いわゆる「第二マンダラ」の解説と考察に関する論文を発表した。そのマンダラ内で述べられている熊楠の言う「名」と「印」とは何かを明らかにした。一方、彼がそこで言及している「縁起」の“論理”に関する深い研究は、今後、熊楠の言う「やりあて」との関連から行っていく予定である。</p> <p>③ その他、2017年が熊楠生誕150年ということもあり、各地でレクチャー、トークイベントのゲストとして招聘された。そこでは、熊楠と現代アートとのかかわりを中心に話を行った。今後の南方熊楠研究における新たな試みとして、Art Hostel kumagusukuでのトークシリーズ「熊楠とアート」を2018年度も継続的に行っていく予定である。熊楠の直観的思考が、現代のアートとどのよ</p>	<p>〔講座〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聖地をめぐる一聖なる場所とその記憶—」(5月10日) @ 龍谷大学 REC コミュニティカレッジ ・「生誕150年 南方熊楠その生涯と思想」(7月5日、8月2日、9月6日) @ NHK文化センター京都教室 <p>〔トーク〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やっぱり知りたい! 南方熊楠」(5月20日、6月24日、7月22日) @ 京都出町柳 GACCOH ・「reading club vol.2 熊楠とアート 第1章 南方マンダラ」(5月28日) @ Art Hostel kumagusuku ・「reading club vol.2 熊楠とアート 第3章 「やりあて」と tact」(10月14日) @ Art Hostel kumagusuku <p>〔研究発表〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「南方熊楠が見た聖なる表象—聖地那智山での体験とともに—」(9月28日) 龍谷大学仏教文化研究所公開研究会、@ 龍谷大学 <p>〔講演〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南方熊楠顕彰館特別企画展「『ヒューマン・パーソナリティ』と南方熊楠」(5月3日) @ 南方熊楠顕彰館
--	--	---

	<p>うにかかわっているか、あるいはアートにどのようなヒントを与えうるかを「やりあて」（偶然の域を超えた発見や発明的中、熊楠の造語）という概念を用いて考えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「南方熊楠生誕 150 周年記念レクチャー南方熊楠ってだれ？」（7 月 7 日）@ 京都岡崎蔦屋書店 ・「生誕 150 年 巨人・南方熊楠の実像」（11 月 28 日）@ 岸和田健老大学 【新聞寄稿】 ・毎日新聞(大阪・夕刊)「南方熊楠生誕 150 年「伝説」を廃した実像、これから」(4 月 13 日) ・中外日報(日刊)「南方熊楠と仏教一華嚴思想・真言密教の影響一」(11 月 1 日) 【書評】 ・図書新聞『南方熊楠一複眼の学問構想一』(松居竜五) (6 月 3 日) 【解説】 ・河出書房新社『南方熊楠一近代神仙譚一』(佐藤春夫) (pp.171~179) 【ラジオ】 ・NHK ラジオ深夜便「歴史に親しむ 南方熊楠」(6 月 22 日) (25:05~25:50) 【事典項目】 ・以文社『Lexicon 現代人類学 現代を理解するためのキーワード集』「粘菌」「夢と暗黙知」(2017 年度内予定) 【論文】 ・頸城野郷土資料室『頸城野郷土資料室学術研
--	---	--

		<p>究部研究紀要』「南方熊楠による「世界認識構造図」の解説と考察—「名」と「印」をめぐる言説を中心に—」(11月17日)(pp.1~22)</p> <ul style="list-style-type: none">・河出書房新社『南方熊楠—開かれる巨人』「なぜ南方熊楠か—「やりあて」という可能性—」(11月27日)(pp.4~8)・東洋大学国際哲学研究センター『国際哲学研究』「ブリコルール熊楠—「やりあて」とブリコラージュをめぐる—」(2018年3月末予定) <p>〔その他〕</p> <ul style="list-style-type: none">・21_21 DESIGN SIGHT 展覧会「野生展」内の南方熊楠に関する展示の学術協力(2017年10月19日~2018年2月4日)
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 民俗学関連	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク 秩父在住のアーティスト笹久保伸氏への聞き取り調査	特になし

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびきの文化関連 ・直江津プロジェクト関係</p> <p>・くびき野フィールド見学会</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京） ・平成 29 年第一回会合（2017 年 3 月 10 日）：『日本海沿いの町 直江津往還』の東京新潟県人会館における展示の契約更新手続きと新年度の活動方針に関する打ち合わせ。 ・平成 29 年第二回会合（12 月 23 日）：くびき野カレッジー天地びとーでの発表についての報告</p> <p>2) くびき野カレッジ（現地調査等） ・資料収集（5 月 13 日）：直江津図書館 ・資料収集（9 月 7 日）：郵政資料館（千葉県行徳） ・資料収集（9 月 22 日）：上越市公文書センター（清里）、前島密記念館（下池部）</p>	<p>[報告] くびき野カレッジー天地びとー第 5 講 直江津往還補説 5－高田直江津越後往来：維新期の街道と北越戊辰戦争ー」（6 月 10 日）</p> <p>[報告] くびき野カレッジー天地びとー第 6 講 直江津往還補説 6－高田直江津全国往来：街道の近代と内国通運会社ー」（11 月 25 日）</p> <p>第 16 回くびき野フィールド見学会参加ー清里区「星のふるさと館」（5 月 14 日）</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 歴史学関連</p> <p>・ロシア、ソ連史関係</p>	<p>・近現代史研究会開催</p> <p>・ロシア革命 100 年記念シンポジウム参加</p>	

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>書籍紹介</p> <p>近世山伏道中記の読解・検討</p> <p>日本の憑きものに関する検討</p> <p>祭の作劇術論的研究</p>	<p>岩鼻通明『出羽三山 山岳信仰の歴史を歩く』(2017 年 岩波書店刊 (岩波新書) の紹介・解説</p> <p>野田泉光院『日本九峰修行日記』の読解・検討 講義案の作成・実施</p> <p>講義案の作成・実施</p> <p>講義案の作成・実施</p>	<p>『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』(オンライン・ジャーナル)Forum21 2017 年 12 月 6 日</p> <p>くびき野カレッジ」にて以下の連続講義</p> <p>③2017 年 1 月 28 日</p> <p>④2017 年 7 月 8 日</p> <p>⑤2017 年 7 月 22 日</p> <p>⑥2017 年 9 月 23 日</p> <p>「くびき野カレッジ」にて講義</p> <p>・ 2017 年 4 月 8 日</p> <p>「くびき野カレッジ」にて講義</p> <p>・ 2017 年 10 月 14 日</p>

<p>文部科学省科学研究費研究プロジェクトに参加</p>	<p>文部科学省科学研究費補助金による研究プロジェクト「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」(基盤C JP16K03229 研究代表者:石本敏也聖徳大学准教授。3ヶ年を予定)に研究協力者として参加。なお真野は、四国遍路巡拝記に関する研究を計画している。</p>	<p>以下の日程でミーティング実施</p> <ul style="list-style-type: none">・2017年2月20日・2017年9月4日・2017年10月29日
------------------------------	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 杉山 精一

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化</p>	<p>★【説経節テキスト研究】上越・上信地区に関する演目（山椒大夫、かるかや等）の台本・詞章の研究（東京都指定無形文化財 説経節の会所属、太夫） ★上記演目のテキスト読解を通じて、当時の民衆の意識と今日的意味を探っている。</p>	<p>★今年度は論文・発表ともに特になし</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 ★地域史・地域文化</p>	<p>★【児童福祉、およびボランティア研究】思想史研究の傍ら、ボランティア活動を 30 年来継続してきた。そこでの活動から、過去にもボランティアに関する論文を執筆してきた（「社会福祉とボランティア」、立正大学心理・教育学研究創刊号、2003 年）が、今回、それらの活動の総まとめとして自ら編者となり、所属するボランティアグループの歴史とボランティア研究の著作を刊行した。</p>	<p>〔著作・論文〕 ★編著作 杉山精一編著、『養護施設とボランティア』、揺藍社、2017 年 7 月 ★論文 上記著作に、序文や記事・紹介文などを除き、ボランティア研究として、「子どもの貧困」の時代におけるボランティア」を執筆・掲載した。</p>

		<p>★記事 上記著作のレビューが『はちとぴ』（2017年9月号、揺籃社発行）に掲載された。（執筆は同社編集部による）</p>
--	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京）・平成 29 年第一回会合（平成 29 年 3 月 10 日） <概要> 直江津プロジェクトの研究成果である『日本海沿いの町 直江津往還』（平成 25 年 11 月、社会評論社）の（一般財団法人）東京新潟県人会館における展示契約の更新手続きについて報告を行う。 また、新年度の活動方針に関する打ち合わせを行う。</p> <p>2) 直江津プロジェクト（東京）・平成 29 年第二回会合（平成 29 年 12 月 23 日） <概要> 本年度の研究活動成果報告を行う。</p>	<p>〔エッセイ（単著）〕</p> <p>1) 「文学と近代から直江津を描く」 東京新潟県人会 『新潟縣人』平成 29 年 7 月号 [第 755 号]、11 頁（平成 29 年 7 月 1 日刊行） <概要> 『日本海沿いの町 直江津往還—文学と近代からみた頸城野』（平成 25 年 11 月、社会評論社）の概要を、編著者として紹介した。</p> <p>〔頸城野郷土資料室「会員通信」(サイボウズ)〕</p> <p>1) (平成 29 年 7 月 1 日発信) 「東京新潟県人会会報誌に記事掲載」</p>

		<p>〔講演（単独発表）〕</p> <p>1)「エドウィン・ダンにゆかりの人々―伊藤一隆を中心に―」</p> <p>NPO 法人頸城野郷土資料室併設学園「くびき野カレッジ天地びと」講演、於上越市「町家交流館・高田小町」（平成 29 年 8 月 26 日）</p> <p><概要></p> <p>ダンが直江津における石油事業を始めるにあたって招聘した伊藤一隆について紹介した。</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p>		<p>〔コメンテーター〕</p> <p>1)「言語の壁がなくなったら：機械翻訳と未来社会」</p> <p>上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 2016 年度「大学院生・若手研究者イニシアティブによるワークショップⅡ」</p> <p>（於上智大学 四谷キャンパス 10 号館、平成 29 年 1 月 21 日）</p> <p><概要></p> <p>「グローバル化」と「言語の壁」の問題を、「機械翻訳」という観点から考える。</p> <p>本ワークショップでは政治哲学、社会言語学、文学の若手研究者が報告を行い、その後コメンテーター（機械翻訳の研究者、哲学史の研究</p>

者) を交えて様々な角度から議論した。

〔講演会運営参加・支援〕

1) 「都市の市民性」

「フランク・カニンガム先生講演会」(主催：日本大学哲学思想研究会、後援：総合社会科学会、於アルカディア市ヶ谷「赤城」)における講演概要の翻訳 (平成 29 年 10 月 14 日)

<概要>

トロント大学名誉教授(哲学、政治学)でサイモン・フレイザー大学特任教授(都市研究)も務めるフランク・カニンガム氏による **Urban Citizenship** と題する英語による講演概要の翻訳。

〔学会発表〕

1) 「ポパーとモンテーニュ-人間の無知の強調の先にあるもの-」

日本ポパー哲学研究会・第 28 回年次研究大会
(於日本大学商学部、平成 29 年 8 月 5 日)

※本発表要旨は以下に掲載されている：

『批判的合理主義研究』(日本ポパー哲学研究会事務局機関誌編集部編) 第 9 巻 1 号(通巻 17 号)、2 頁、平成 29 年 7 月。

		<p>〔論文〕</p> <p>1) 「ポパーとモンテーニュ—人間の無知の強調の先にあるもの—」</p> <p>『批判的合理主義研究』（日本ポパー哲学研究会事務局機関誌編集部編）第9巻2号（通巻18号）、2-15頁、平成29年12月。</p>
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 田村 敬

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関係しない研究】 1 埼玉県蓮田市の文化財に関する調査研究 2 主に埼玉県域を中心に関東地域における近世農村史の調査研究 3 近世・近代の地方芝居の調査研究	1 については、蓮田市で行われた3月と10月の文化財保護審議委員会に出席し、当該地域の文化財に関する討議を行う。 2、3については、埼玉県立文書館に適時行き、県内の文書の閲覧および解説・検証等を実施する。	特になし

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 中島 浩貴

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域と軍隊——軍都の比較研究・地域コミュニティの活性化——コミュニティデザインの活用	<p>新潟高田と北海道旭川の都市形成に関する軍隊の役割を比較検討し、日本の社会における軍隊と都市の関係性について共通点と差異を導き出すことを意図した研究を行っている。</p> <p>地域コミュニティの活性化を読書会や学生企画のイベントを通して行うコミュニティデザインの研究を行っている。</p>	<p>29年度はなし</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・一般兵役義務言説の展開とその変容	<p>19世紀から20世紀の近代社会の形成において重要な、社会の軍事化という文脈において一般兵役義務が社会のなかでどのように議論されていたのかを論じた。近代における戦争の転換、国民国家と戦争などの問題を扱い、社会的言説がどのように形成されていったのかについて検討した。加えて、プロイセン・ドイツの軍事思想家クラウゼヴィッツについての研究も進めた。</p>	<p>日本クラウゼヴィッツ学会シンポジウムでの報告、「クラウゼヴィッツと「戦争の歴史」『日本クラウゼヴィッツ学会会報』日本クラウゼヴィッツ学会、17号、2017年、21頁～35頁。「軍事的オリエンタリズム——ドイツ帝国における一般兵役義務と東洋言説」『19世紀学研究』19世紀学学会、11号、2017年、41頁～57頁。トーマス・キューネ、ベンヤミン・ツィーマン編著、中島浩貴ほか訳『軍事史とは何か』原書房、2017年、9頁～60、459～462頁（該当部分を翻訳、執筆）。</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 長谷川 和子

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月 直江津プロジェクト『直江津往還』県人会館展示の件で瀧田先生と打ち合わせ（県人会館） ・ 4月 （4月22日）くびきのカレッジ天地びと 清水萬蔵氏「江戸期、直江津今町町民騒動二題（1）」受講 ・ 1月～12月、月一回 本牧中学校コミュニティハウス 主催事業 『歴史講座』 講師：香川正彦先生 江戸時代初期から幕末維新 歴代将軍の治世、特色、主要な出来事の解説などが中心。 ちなみに12月のテーマは「生麦事件 前後の動き」 通年 フォーラムに提出する原稿の執筆 「サンドラ・D・オコナー（米国連邦最高裁判所初の女性判事）－その人と生き方」 	<p>聴講のみ</p> <p>聴講のみ</p> <p>未完</p>

【くびき文化に関係しない研究】	2017年1月 流通経済大学に出講 準備のためのレジュメ作成	2016年に引き続き『グローバルビジネス英語』についての講義をする。
------------------------	-----------------------------------	------------------------------------

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>・郷土作家研究（三浦哲郎、小川未明）</p>	<p>・平成 24 年 7 月 14 日に行われたくびき野カレッジ天地びと「作家三浦哲郎とふるさと八戸」に加筆、修正を加え、三浦の郷里（筆者と同郷）を想う気持ち——とりわけ“母”こそが三浦文学の源泉となっている——という視点から彼の作品を捉えかえし、改めて発表した。もとより郷里を想う気持ちから作品が結晶化するという筆者の視点は、一方で続けている高田の作家・小川未明研究にも通底するものであり、目下、石塚正英氏の「童話作家小川未明の愛郷心（パトリオフィル）」（第 58 回歴史知研究会、平成 29 年 12 月）の発表に触発され、未明の思想形成を模索している。</p>	<p>・「おふくろ——三浦哲郎文学の泉」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Forum17、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部、平成 29 年 8 月</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>・現代社会と優生思想</p>	<p>・本研究では、フクシマ（平成 23 年）とサガミハラ（平成 28 年）の〈はざま〉で開始された「新型出生前診断」（平成 25 年）をめぐる生 - 権力／構造的暴力の磁場に光をあて、二つの事件の負荷が炙り出したものに私たちの社会空間に潜在する「内なる優生思想」があると措定し、「新型」はこれを助長するものであるとする視点から、〈いのち〉の係留点としての女性身体が深く、深く、傷つけられようとしているその様相を解明せんとした。また、こうした事態に対抗する視座として、〈所有〉から〈存在〉の“構え”への転換を提起し、目下、その内実について検討を深めている。</p>	<p>・「〈ここ〉からはじまる——フクシマとサガミハラが『身体』に投げかけるもの」第 12 回総合人間学会研究大会若手シンポジウム（於）学習院大学、平成 29 年 6 月 11 日</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域に根差した NPO の活動について	<ul style="list-style-type: none">・上越市 NPO ボランティアセンター・主催 平成 29 年度 第 1 回 「市民活動交流会」 への参加 テーマ：「クラウドファンディングを活用しよう」 平成 29 年 5 月 11 日・特定非営利活動法人くびき野 NPO サポートセンターの活動について取材 →カレッジでの発表（「発表状況」参照）	<ul style="list-style-type: none">・くびきのカレッジ天地びと 第 14 期カリキュラム 平成 29 年 6 月 10 日 第 5 講 にて口頭発表 「身近な NPO 活動を知る」
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・血縁，性別，戸籍を越えた「家族」の在り方を考える		<ul style="list-style-type: none">・山田彩加 2017 『『家』の彼方へ かけがえのない家族（ポリファミリー）』 （『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 「ディスカッションペーパー」）

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 29 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山本 希一

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関係しない研究】 歴史・地理系 思想系	・越後新田一族の定着と展開 ・地形地名研究 倫理・道徳思想と日本思想の中の倫理	・江戸・東京消失地名録 地形地名編 大田区 (『季刊 Collegio』63 秋冬・合併号 2016 ～ 66 秋号 2017 之潮 (コレジオ) 以下続刊予 定) ・(私家版)授業教材として使用中